



9月ほけんだよい

松山市 保育・幼稚園課
令和4年度 第6号



残暑は厳しいものの、朝夕の涼しい風に秋の気配を感じるようになりました。夏の疲れが出やすくなるので、しっかり栄養をとり、十分睡眠をとるなどして、体調を崩さないように気を付けましょう。

9月9日は救急の日

子どもの救急について

夜間や休日に子どもの具合が悪くなり、「救急医療」を受診すべきかどうか迷ったときには、全国同一の短縮番号#8000をプッシュすることで都道府県の相談窓口につながり相談ができたり、救急アプリなどを利用したりする方法があります。

●子どもの医療電話相談

看護師や医師などが家庭での応急対処の方法などについてアドバイスします。

利用方法	携帯電話・プッシュ回線の場合	ダイヤル回線の場合
	#8000	089-913-2777
利用時間帯	平日 19時～翌日8時 土曜日 13時～翌日8時 日・祝日 8時～翌日8時	

注意事項

- 1.電話による限られた情報に基づく相談であり、直接、子どもの状態を見て行う診断・治療ではありません。あくまでも相談される方のご判断の参考としていただくためのものです。
- 2.医療機関を紹介された場合は、必ず電話をかけてから受診するようにしてください。
- 3.話し中の場合は、しばらく時間をおいて、改めてかけ直してください。
- 4.相談は無料ですが、県内通話料をご負担いただきます。

●子ども救急ガイドブック「かかりつけ医がお休みのときに」

●全国版救急受診アプリ（愛称「Q助」）などもあります。参考にしてみてください。

熱性けいれんについて

一般に生後6か月～5歳までに、発熱時（通常は38度以上）に起きるけいれん発作を熱性けいれんと呼びます。

＜症状＞ 熱が上がりはじめた頃に多く、突然意識がなくなり、白目を向いて、身体をそらせるように硬くしたり、手足をガクガク震わせ、顔色が悪くなります。ただし、身体力が抜けて、ボーっとして意識がなくなるだけの場合もあります。

（参考：日本小児神経学会ホームページ）

＜起こったときの対応＞

- ・まずは慌てないようにしましょう。
- ・体を揺すったり、耳元で叫んだりしないようにしましょう。（刺激を与えない）
- ・服を緩め呼吸を楽にしましょう。
- ・吐いた物がのどに詰まらないよう、顔を横向きにしましょう。
- ・口の中に指やお箸、スプーンなどを入れないようにしましょう。
- ・体温を測定し、けいれんが続いた時間、目・手足の状態（左右差）などを細かく観察記録しておきましょう。
- ・5分以上続く、または短時間でも繰り返し起こる時は救急車を呼びましょう。
- ・症状が落ち着いても「かかりつけ医」などの病院受診をしましょう。
- ・病院受診したことや心配なことなどは、登園時にお知らせください。



＜観察記録のポイント＞

スマホ動画撮影をしておくと診断の時に役立ちます。

